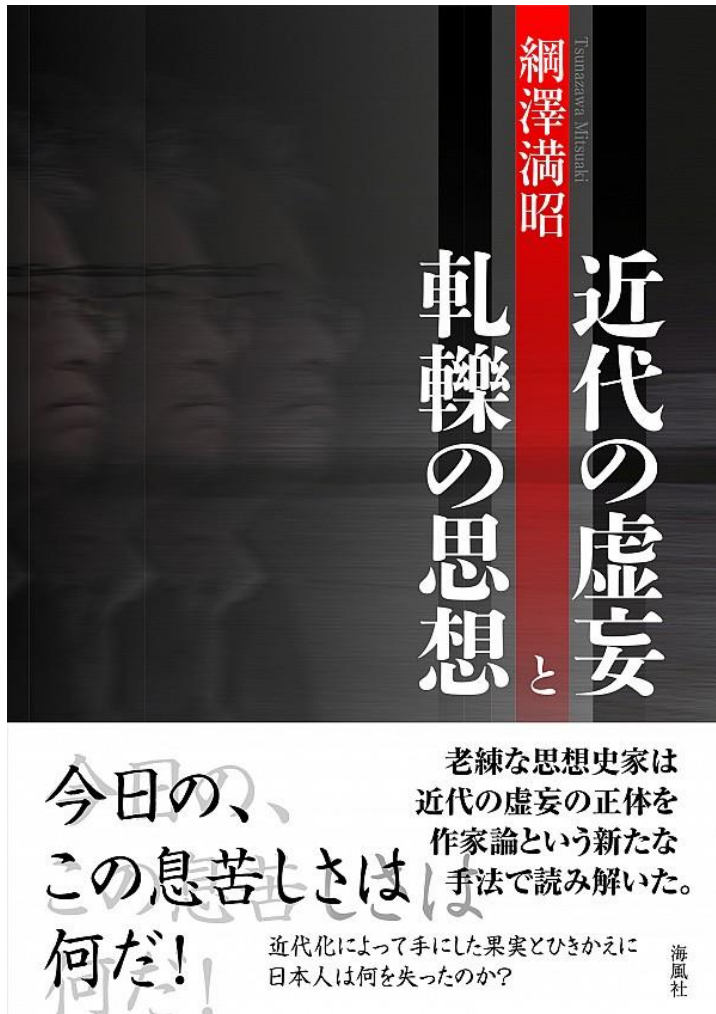


近代の虚妄と軋轢の思想（海風社）



綱澤 満昭

【目次】

橋川文三私見
村上一郎と草莽
竹久夢二と悲哀
岡倉天心の
アジアによせるおもい
故郷喪失とナショナリズム
—柳田国男の場合—
祖先崇拜と御霊信仰
ふたたび「教養」を考える
阿呆のつぶやき
あとがき

長年にわたり近代思想と近代化にこだわり続け、近代化の限界を確信した著者が近代思想に抗する思想を作家論という手法を用いて論じた書。

本書でとりあげた人物は橋川文三、竹久夢二、岡倉天心、柳田国男。

そして、二部にあたる後半では天皇制、崇りの思想をとりあげ、「祖先崇拜と御霊信仰」について、さらに大学教員を務めた著者が教学と大学行政の立場から発してきた「教養」の問題を論じた「ふたたび『教養』を考える」へと続き、「阿呆のつぶやき」はある学術雑誌の編集後記を時系列に集めたもので、著者の思想史研究の精神が垣間見える。